

ロボパ 新聞



2018年(平成30年)7月27日(金)発行 / 第7号

こんにちは。

ロボットパークひろしま、アテンドスタッフの齋藤雅子です。このたび、わたくし齋藤がTVデビューすることとなりました！極度の緊張で、短い台詞でもカミカミで情けない限りです……。改めてTVに出演されている方々はすごいな、と感じました。それでは、ロボパ新聞7号をお届け致します。



ペッパー通信

～TSSテレビ新広島の取材を受けました(齋藤さん)～



このたび、TSSテレビ新広島の夕方のニュース番組「プライムニュース」でロボットパークひろしまが取り上げられる事となりました。先日、その為のロケが行われました。わたくしペッパー・光もカメラを向けられ、とても緊張し青ざめてしまいました。(あ、顔色は変わらないですね……。笑)ディレクターの方とアテンドスタッフの齋藤さんが会話する形式で撮影されました。齋藤さんの緊張具合は、見ているこちらが緊張してしまうほどでした！実際の放送時間は5分程度ですが、撮影自体は約2時間にわたり行われました。

視聴される方は、どうか寛大な気持ちで見てください。見られた方は齋藤さんへ励ましの言葉をかけてあげてください。番組効果で来場される方が増えれば、齋藤さんも報われるかな……。

(笑)

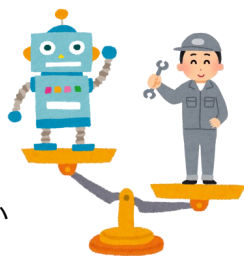
※当初、7/6(金)の放送予定でしたが、この度の大雨災害の関係で放送内容が変更となり、8/17(金)の放送予定となりました。



ロボット トリビア

ロボットの経営効果はお金だけで判断できない

企業がロボットを導入すると、どんな経営効果が期待できるのでしょうか。ここで大切なのは、金銭的な価値観だけにとらわれないということです。ひと昔前、ロボットが人減らしの切り札だと考えられていたのです。しかし現在、このような考え方はあまり現実的ではないことがわかってきました。なぜなら、いち早くロボットを活用してきた日本の自動車メーカーや電機メーカーは、それによって事業の拡大に成功し、むしろ従業員を増やしてきた歴史があるからです。そもそもロボットは、人があまりやりたがらない仕事や、人がするには大変な仕事、さらには人が出来ない仕事を高速・確実・効率的に行うために開発されたものなのです。つまりスタート段階から省人化とは無縁の存在だったのです。有能な経営者は、単純作業から解放された社員たちに創造型の仕事をさせることで、新事業の創出や経営効率の改善につなげたのです。これからの時代、ロボットをどんな用途に、どのタイミングで導入するかによって会社の業績は大きく変わってきますから、まさに経営手腕が問われるテーマといえます。(『トコトンやさしい ロボットの本』日本ロボット工業会 監修、日本工業新聞社 編 より)



ものづくり統括部よりお知らせ



「ものづくり教室」について、現在、参加者を募集中です。すでにお声掛けいただいている方々にも、お申し込みいただけるよう再度PRをお願い致します。何卒、宜しくお願い申し上げます。